

まだ図書館に在職している身として、資料にかかわる職場が専門知識から業務処理を重視する方向に流れつつあるのは、なんとしても寂しい思いを禁じ得ない。

経済資料協議会を通じて、この 27 年間に私が学んだのは、飽くなき向上心（経済資料協議会の会員には人間離れした方もおられることはどなたもご存じだと思います）と人間関係の大切さであった。これは私の一生の財産と思っている。

経資協の皆様、お世話になりました。どうぞお元気で!!

朝 倉 美恵子

(北海道大学大学院経済学研究科)

私が、『経済学文献季報』の採録の手ほどきを職場の先輩の杉野和子さん(2001 年 3 月退職)から受けたのは 1986 年頃で(北大が経済資料協議会〔以下、経資協〕に加盟したのは 1966 年)、何と私も 20 年以上も経資協に関わってきたことに、今更ながら驚いています。

経資協の『KEIS- II 書誌記述マニュアル』での採録作業では、杉野さんにいつも懇切丁寧な指導を受けました。総会や研究会には、3 年に 1 回の割りで、彼女と交代で出席させて頂きましたが、当時は、東西 2 つの部会で夫々に活発な活動を行っていた時で、かつての経資協の錚々たる方々、事務局の方々、その他、加盟機関の会員の方々の熱心な討論に、唯々呆気にとられて聞いて帰ってくるだけでした。特に、日本大学の大日方祥子さんには、大変お世話になりました。今もその頃の様子が思い出されます。

それでも、私が少しずつ、理事や役員の方々、他大学の仕事熱心な方々と知り合いになって 10 年程が経った頃、会員の方からのご要望もあって、私が北大での総会開催を杉野さんに相談したところ、彼女

は、私の気持ちをきちんと受け止めてくれて、すぐに小林好宏学部長から承諾を得て、記念講演を経済学部荒又重雄教授にお引き受け願うなど、私と一緒に総会の諸準備に奔走してくれました。経資協の事務局の方々の暖かいご声援のお陰もあり、1996年に第51回総会を無事開くことが出来ました。総会当日には、北大経済学部の早川豊教授が、会長の杉山忠平先生のお名前を聞きつけて、会場受付に覗きにいられたのを覚えています。丁度、その季節が、札幌のライラックの花が咲き乱れる6月6、7日で、総会終了後、北大構内の百年記念会館前の緑の芝生に椅子を並べて、近畿や九州からの方々と一緒に、総勢60名もの皆さんと記念撮影した時の様子が目に浮かびます。

ところが、その5年後の2001年6月、グランドヒル市ヶ谷の第56回総会で経資協創立50周年記念を祝ったのもつかの間、経資協の存続が危ぶまれ、組織改革が総会の議題に上り始めました。

その頃から、情報化時代の到来とともに、経資協の採録情報もデジタル化され、機械に弱い私は皆さんの足手まといの様で非常に恐縮しておりましたが、「機械化講習会」等々に何度も参加させて頂き、やっとの思いで機械化に取り組みました。私が職場移動のない職種ということもあって、唯々、長いだけの会員で申し訳なく思っていたのですが、1998年から、曲りなりにも理事をお引き受けすることになりました。そして、2001年8月の京大会館で『経済学文献季報』の冊子体発行の中止（『経済学文献季報』176/177号で廃刊）を決定した理事会のことは、今でも非常に印象深く記憶に残っています。

話が前後しますが、加盟機関の退会が加速度的に増加して、組織存続について、盛んに議論される中、加盟機関に「編集センター支援」を求められた時、非力な私が、「編集作業支援に立候補したい」と、杉野さんに相談したのは、彼女が停年退職するほんの数年前のことでした。彼女は、まともや私の無謀な依頼にさぞかし当惑したことと思います。そんな彼女に、退職後も経資協への、というよりも私への支援を取り付けて、当時の内田和男経済学研究科科長に、何とか研究科からの「承認」を出して頂きました。そして、編集センターの櫻田忠衛さんに支援を申し出た处、彼も大いに喜んでくれたものの、私では何とも心許無く感じたのでしょうか。小樽商大の今野茂代さんとの2

機関で編集作業のサポート体制を組むことを提案して下さり、幸いにも、今野さんも非常に快く「編集センター支援」に同意して下さいました。お陰で、1998年から「編集サブ・センター」の仕事をさせて頂くことが出来ました。その間、事務局はじめ、中央大学の荒木康裕さん、船山康さん、早稲田大学の渡辺洋一さん、東京経済大学の小川喜久雄さん、その他、会員の皆さま方には、大変ご迷惑をおかけしたことを思います。

しかし、以上の様な皆さんの頑張りにも関わらず、退会続出や採録作業の人手不足で、数回にわたる採録誌の見直しや採録担当替え等々の対応ではどうにもならず、採録中止の窮地に追い込まれて、ついに「編集サブ・センター」のお役目も2005年で終了となってしまいました。

経資協に最後まで何とか残った北大も、2004年4月からの国立大学の独立行政法人化を機に、急激に変化しつつあります。今と見てみると、58年もの長い歴史を持つ経資協を次の時代に引き渡すことができなかったことを、非常に残念に思いますが、これも現在直面する国の諸政策の動きの中で、私共には、如何とも抵抗し難いことなのかと思う昨今です。

思えば、現在まで、皆さまには本当にお世話になりました。色々な大学・図書館・研究所・施設を見学させて頂き、講演会・研究会にも参加させていただいて大いに勉強になりました。私は、此处で、もう少し働き続けたく思っておりますので、皆さんが北大にいらっしゃる機会がございましたら、是非、お立ち寄りください。また、皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

最後になりましたが、皆さまのご健康とご活躍をお祈りしています。

(2008年7月31日)